

この世界には
ロマンがある

ふーちゃん

ボランティア
スタッフになる？の巻

漫画第4話

目からの
うろこ！

宗像の歴史文化を未来へつなぐ

表紙イラスト／司馬さやか

豪華3点セット

(むなかつ大豆プロジェクト)

が当たる!!

宗像特産品
プレゼントコーナー

詳しくはウラ面を
ご覧下さい。



最終回

ひととまちとの交差点Vol.04
宗像海人航海日誌
宗像市人づくりでまちづくり事業補助金



宗像海人
航海日誌

Final Ship's log

我々漁師は「海の番人」

共進丸 機関長
ごんだ こうすけ
権田 幸祐

1984年6月25日生まれ。先祖代々続く漁師の家に生まれる。春から秋は巻き網漁、冬はトラフグ漁に従事する傍ら漁業を盛り上げるべく日々奮闘中!

「海は神様そのものみたい」。今は亡き祖父の言葉ですが、畏れ、敬い、感謝の念を持ち接しなさいということでしょうか。漁業の未来、それは人と海との共存です。より多くの人と海の恵みを分かち合い、共存していくためにはまず、この海が豊かなくてはなりません。今のままの仕組みではそれは絶対に成し得ません。現時点では漁獲圧を大幅に減らさなければならぬでしょう。今よりも高度で細かい漁獲可能枠の設置が必要不可欠です。さらに市場と連携し需要をしっかりと共有した上で供給することが重要です。同じ魚でも、より共有しやすい魚を提供して、今まで以上に質(中身)にこだわらざるべきです。

そして環境保全。これがとても重要です。世の中が便利になればなるほどゴミが増えました。世の中の急速な発展にモラルも環境も追いつけず、自然災害が増え、豪雨がさらに大量のゴミを海へ運ぶ結果となっています。海岸に流れ着くのはほんの一部で、その多くは海を漂流しています。それを回収しなければならぬ者がいるとすれば、それは海を生業とする者でしょう。今の海には漁獲以外の新たな役割と仕組みが必要です。海を守る者の存在がなくてはなりません。

おわり

Furagu News

宗像市 人づくりでまちづくり事業補助金

子育て支援、環境保全、健康づくり、スポーツ振興、国際交流など、各種分野で人材育成や協働によるまちづくりにつながる活動を支援する補助金です。



自由の森遊歩道を守る会による活動

申請期間 4月1日(月)～4月19日(金)午後5時必着

対象 市内に活動拠点を有し、3人以上で構成する市民活動団体

提出先・問合せ先 メイトム宗像市民活動・NPOセンター
TEL:0940-36-0311

補助金の種類 ① 自由提案型事業
[上限]50万円
[補助率]3分の2以内

② 行政テーマ型事業
[上限]50万円
[補助率]10分の9以内

③ チャレンジ支援型事業
[上限]30万円
[補助率]4分の3以内

補助金の
詳細や申請書
の様式は
こちらから



宗像特産品
プレゼント
コーナー
2名

「むなかつ大豆プロジェクト」の
大豆商品セットが当たる!

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた人に抽選で、宗像で採れた大豆の商品セットをプレゼント! 次号のふらぐとともにお届けします。



<http://urx.blue/Q3Or>

応募締切は2019年4月30日(火)アンケートはこちら!!

¥0 TAKE FREE



むなかつ市民フォーラム



<http://forum-munakata.org>

ふらぐバックナンバーはこちらから!
ふーちゃんの過去話などもチェックできます。



今回参考にさせていただいた団体です

参考団体の紹介
むなかた大豆プロジェクト

むなかた大豆プロジェクトは、地域創生に向けた取り組みとして2015年から宗像市の地域創造ビジネス支援事業の一つとしてスタート。市内の農家、地元企業、市内外の学生などが関わり、上八(こうじょう)地区の遊休農地を活用して大豆を栽培しています。収穫した大豆で商品化から販売までを行い、宗像産大豆のPRを行っています。今回のプレゼントコーナーはむなかた大豆プロジェクトの商品セットです!



活動の様子
問い合わせ先
宗像市コミュニティ協働推進課 政策係
TEL/0940-36-5394
むなかた大豆プロジェクト

NPO豆知識
NPOの成り立ち

Mr.ビーンズが「地域を元気にしたい!」と思ったことがきっかけであるように、NPOや市民活動は地域が抱える課題を解決したいという1人の想いから生まれます。その想いに共感したり応援したいと思ったり、何か役に立ちたいと思った人が集まることで1人は小さな団体となり、課題解決により近付きます。宗像市にはそんな団体を支援する制度があり、メイトム宗像の市民活動・NPOセンターが相談窓口となっています。わからないことなどあれば気軽ににお越しください。

漫画ストーリー: 会社勤め時代 (Vol.17~20)

ぼくは祖父が大豆一筋の農家でね。幼い頃は祖父と地域の人が一緒に育ててもらったようなもんさ。よく気がついてくれた。ぼくは、聞いてくれるかい? これは? ミミズ、まめまき。ぼくが故郷を盛り返せられないだろうか? 農業を通して盛り返せられないだろうか? 会社勤め時代 (Vol.17~20)

農業体験: 自分で育てて、自分で食べる!! 収穫&試食会

農業に興味を持てたら! 農業は、地域を元気にしたい! 農業は、地域を元気にしたい! 農業は、地域を元気にしたい!

漫画ストーリー: NPOセンターが「ふらぐ」を発行している

冬にNPOのお手伝いをしてから。今日はお花見に来ているふ〜ちゃん。正助さんとお花見に来ているふ〜ちゃん。きねい!! だねい!!

家族と暮らせない子どもを地域で育てる団体さん... ※1...ふらぐVol.18「じょうもんさん会」 ※2...ふらぐVol.15「認定NPO法人 SOS子どもの村JAPAN」

「必要性を感じて自分から行動をおこす」 そんな人たちが身近にもたくさんいるんだなあ... 私、いつかやってみたいな。時間もかかるといふ。時間もかかるといふ。時間もかかるといふ。

【Mr.ビーンズとは】以前「NPO豆知識」(Vol.17~20)に登場した人物。なんとふ〜ちゃんの中学の同級生でもあるのだ!

説明しよう! 見ての通り、味噌を売っているのさ。お味噌、いっしょに!!!

やあ!! ふ〜ちゃん、じゃあ、はい!! 久しぶり!! こんなの、何してるの!? ビービーンズ!?

NPO豆知識

宗像に住むふ〜ちゃんとはどこにでもいる専業主婦。これはふ〜ちゃんがNPOのことを少しずつ知りながら、まちでやりがいを見つけていくお話です。

ふ〜ちゃん! 第4話 ふ〜ちゃん、ボランティアスタッフになる? の巻

ひとまちの交差点

宗像のまちで秘かに活動する魅力的な人。その「ひと」が「まち」と出会い、交わるきつかけを、ふらぐ編集部がしぎようが取材してきました。

ふらぐ編集部
しぎよう



地元産の魚を使った食イベントを開催



獲った魚をさばく料理教室

「県庁を辞めて漁師になったらいい」。噂のその人は鐘崎の漁村文化を次代につなぐ会の桑村勝士さん。なぜそうなったのか、どうしても気になる!!...ということで、桑村さんの交差点について取材しました。

しぎよう：桑村さんこんにちは！「県庁職員から漁師」ということなんですが、元から漁師に興味があったんですか？

桑村さん：小さい頃から生物や魚の生態に興味があったので大学は農学部水産学科に進みました。生物学者になれたらいいなあと思って大学院まで進みましたが、漁業生産の現場に接する中で、漁業のことは生物の研究だけでなく人間活動を通して見ないとわからないと思うようになり、現場に近い仕事ができる水産の研究機関がある県庁に就職したんです。豊前市にある研究所で5年漁業の研究に、福岡市内の県庁舎内にある水産関係部局で15年水産行政に携わりました。

しぎよう：研究に留まらず直接関わっていきたくなったんですね。漁師になると決めるまでの間、県庁ではどんなことがあったんでしょう？

桑村さん：県庁では現場情報をできるだけ取り込んで、社会の実態に沿った政策となるよう心がけていました。現場ではさまざまなことが予想せ

ず起こるので、とにかくたくさん足を運ぶことを大切にしていました。年を追うごとに管理部門の仕事が増えたり経費節減を迫られたり、役所のシステムをまわす内向きの仕事にエネルギーが偏ってしまう中で、現場感覚が鈍り、社会の実情から離れていくのを感じました。そんな構造的な限界を感じながら働くよりは、現場サイドで、現場と政策をつなぐ役割を担う仕事をしてみたいなあと思うようになりました。そのためにはまず自分自身が漁業の当事者になって、肌身で理解しなければいけないと思ったわけです。

しぎよう：いろんな課題があったんですね。転職に対して家族の反応はどうでした？

桑村さん：家族には心配をかけてしまっていると思いますが、「自分で考えて出した結論には反対しない」と言ってくれました。妻には特に感謝しています。

しぎよう：いろいろな漁村地域とつながりがあったと思うんですが、なぜ鐘崎なんですか？

桑村さん：県庁を辞めると決めたとき、当時トラフグ漁業の資源保護や操業調整で協力関係にあった鐘崎の方に「漁師になるならうちに来い」と声をかけていただきました。1年目はまさに網漁業の乗組員として雇っていただき、2年目の2014年、まだ半人前でしたが思い切って自分で船を買っていか釣り漁業を始めました。

くわむら かつし
桑村 勝士さん

宗像漁業協同組合 組合員／
いか釣り漁業者



宗像漁業協同組合鐘崎本所所属の漁業者有志による任意団体「鐘崎の漁村文化を次代につなぐ会」の事務局を担い、ヤリイカ漁、サワラ漁の傍ら、地元水産物を用いた食イベントや魚さばき教室などに取り組んでいます。

しぎよう：桑村さんの今後の展望について教えてください。

桑村さん：まずは漁師として、人並みの仕事ができるように基礎を固めたいです。地域活動の方では料理教室や地元産の魚を使った食イベントを開催しているのですが、参加者二人ひとりのなげない表情や会話の中に今後の漁業を考える貴重なヒントが眠っていると思います。地道な活動ですが、そこで得た気づきを漁業の発展や地域活性の取り組みに活かすプランにまとめ、これまで解決できなかった課題を解決していきたい。そして漁業者、漁業関係業界の方々、行政、市民のみなさんなどと連携しながら、地域づくりの政策と現場をつなぐ仕事をしていきたいと思っています。

“あなたにとっての交差点は、どこですか？”

“交差点と言うよりは、これまで関係したすべての漁業関係のみなさんとの出会いによってできた道を自然にたどっている気がします”





第16 番外編

好奇心旺盛なタチバナくんと子育てになかなか安堵できないアンドウさんが地域で取り組む活動を取材してきました。

宗像の歴史文化を未来へつなぐ

取材に行ってきたばい



NPO初心者のアンドウさん

宗像の歴史文化を伝える活動をしている「海の道むなかた館地域学芸員」。世界遺産登録決定を機にますます活躍が期待される地域学芸員の活動の魅力にせまる。

市民が施設運営をサポート

平成24年4月、宗像の歴史文化の継承のための施設「海の道むなかた館」が開館。宗像の歴史が学べる展示をはじめ、子どもから大人まで幅広く楽しめる体験学習やイベントなどを開催している。宗像大社に隣接していることもあり、参拝者が宗像の歴史文化や世界遺産のガイダンスを求めて訪れることも多い。勾玉づくりや火おこしなどの古代体験学習は、「普段なかなか体験できないものばかり」と子どもたちを中心に人気だ。

海の道むなかた館は、開館準備段階から市民への参加を呼びかけ、ともに運営を行う体制をつくりあげてきた。「海の道むなかた館地域学芸員」は、展示室での展示解説や体験学習の支援などを担うことで施設運営をサポートしているボランティアスタッフだ。現在、71人の地域学芸員が活動しており、平成31年4月には新たに23人が加わる。

「歴史が好き」

小さなきっかけから広がる世界

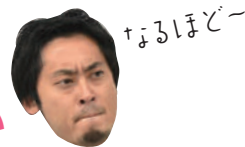
開館当初から地域学芸員として活動している園元かをりさん。「はじめたきっかけは、“歴史好き”です。もともと宗像の海を舞台に活躍した人々の歴史に興味がありました。地域学芸員の活動のためというよりは、養成講座の内容をみて宗像の歴史を一から学べるチャンスだと思いました」

自分の興味があることから一歩踏み出し、地域学芸員の養成講座に応募したことがきっかけで、園元さんの世界は少しずつ広がっていった。「地域学芸員になっていろいろなことにチャレンジさせていただきました。小学校へ体験学習の支援に行ったり、ユリックスのステージで絵本を読んだり。地域学芸員の活動をしていなければ経験できなかったと思います」と園元さん。また、「ありがとう」「あなたのおかげでよくわかりました」「ここに来てよかった」など利用客からのうれしい言葉が活動の原動力に



なっているという。「私たちは、お客様から“言葉の報酬”をいただいているんです」

子どもたちへ誇りある宗像の歴史文化を伝えたい



海の道むなかた館を運営する宗像市郷土文化課は、館外イベントへの参加や市内小中学校へ出張講座など、活動の場を広げる支援をこれからも続けていきたいという。「地域学芸員さんは海の道むなかた館の顔。しかし、その活動は海の道むなかた館だけで完結するものではありません。もっと外に出て行く機会を増やし経験を積んでいただくことで、世界をどんどん広げてほしいと考えています」と、地域学芸員の今後の活躍に期待を寄せている。

さいごに、「私たちの活動を通して、宗像の歴史に1人でも興味をもってくれる子どもが出てきてくれたらうれしいですね」と園元さん。宗像の誇りある歴史を学びたい、そして誰かに伝えたいと思う子どもたちが増えることを願っているという。「宗像には世界遺産になるようなすばらしい歴史文化があることを知って、子どもたちが自分の生まれ育った場所を誇りに思ってもらいたいです」。未来を担う子どもたちのためにも宗像の歴史を伝える活動を続けたいと園元さんは笑顔で話す。



展示解説をする地域学芸員



楽しみながら歴史に触れる

今回の取材も勉強になりましたか？

勉強になりました！

プロフィール

海の道むなかた館
地域学芸員

園元かをりさん

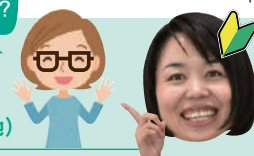
奈良県出身。幼少期に歴史に触れる機会が多かったことが影響し、歴史好きに。そのことがきっかけで、市が実施する地域学芸員養成講座を受講。活動をはじめて7年目になる。



施設紹介

海の道むなかた館 (宗像市深田588番地)

平成24年4月開館。宗像の歴史文化に触れ学べる場を提供する施設。「[神宿る島]宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録が決定した平成29年度に年間入館者数が過去最多の18万人を超えた。



わがったばい！

